

特定非営利活動法人まちなか研究所わくわく

平成 19 年度事業報告書

． 運営に関する事項	2
1. 会員の現状	2
2. 通常総会の開催	2
3. 理事会の開催	2
4. 常務会の開催	2
5. 団体ホームページ運営	3
6. 会報誌「まちわくの元」の発行	3
7. 運営事務	3
8. その他事務所のシェア団体の募集	3
． 事業に関する事項	4
9. マチグラー支援 事業部	4
にぎわい広場関連事業	5
子どもの遊び場づくり事業	7
まちなか事務局事業	8
中心商店街活性化基本計画関連事業	9
10. ファシリテーション 事業部	10
研修・講座事業	11
ファシリテーター派遣事業	12
11. デザインレイアウト支援 事業部	13
広報物作成支援	14
イベント実施支援	15
Web サイト更新支援	16
12. 地域情報収集発信 事業部	17
地域情報誌「み～きゆるきゆる」発行事業	18
13. 調査研究 事業部	20
まちなかデータ収集発信事業	21

特定非営利活動法人まちなか研究所わくわく 平成 19 年度事業報告書

. 運営に関する事項

1. 会員の現状

正会員 12 名 / 準会員 0 名 / 賛助会員 0 名 / 学生会員 0 名

2. 通常総会の開催

平成 19 年 5 月 17 日 (木曜日) 20 時 00 分より 21 時 30 分まで、にぎわい広場 (第二牧志公設市場跡) コミュニティルームにて通常社員総会を開催した。

3. 理事会の開催

第 1 回理事会

平成 19 年 4 月 29 日 (日) 17 時 30 分より 19 時 30 分まで、ウエルサンピア沖縄 (沖縄厚生年金休暇センター) 会議室「綾門」にて平成 19 年度第 1 回理事会 (決算理事会) を開催した。

4. 常務会の開催

まちなか研究所わくわくの運営に関して随時、常務会を開催した。

平成 20 年

平成 19 年

第 86 回 4 月 1 日 (土)
第 87 回 4 月 22 日 (水)
第 88 回 5 月 10 日 (水)
第 89 回 6 月 9 日 (水)
第 90 回 6 月 23 日 (水)
第 91 回 7 月 7 日 (土)
第 92 回 8 月 3 日 (金)
第 93 回 8 月 28 日 (火)
第 94 回 9 月 2 日 (日)
第 95 回 9 月 20 日 (木)
第 96 回 10 月 23 日 (火)
第 97 回 11 月 21 日 (水)
第 98 回 12 月 7 日 (金)
第 99 回 12 月 18 日 (火)

第 100 回 1 月 8 日 (火)
第 101 回 1 月 21 日 (月)
第 102 回 2 月 5 日 (火)
第 103 回 2 月 21 日 (木)
第 104 回 3 月 2 日 (日)
第 105 回 3 月 7 日 (金)
第 106 回 3 月 19 日 (水)
第 107 回 3 月 25 日 (火)

5. 団体ホームページ運営

担当スタッフ：山脇佳子

内容：団体の活動を公開するツールとしてホームページを活用する

成果：昨年度、事業報告をブログ形式に変更し、日々の活動や募集情報を発信してきた。平成 20 年 4 月 23 日現在 14229 アクセス。

課題：事業報告以外のページ情報が古くなってきており、更新する必要あり。

6. 会報誌「まちわくの元」の発行

担当スタッフ：小阪亘

概要：(特活)まちなか研究所わくわくの各会員及び活動に興味を持っている人たちに対し、当団体の事業、運営内容を会報誌にまとめ発信し、活動に理解と興味を深めてもらい会員数増につなげることを目的とし、第 3 号を発行した。

内容：第 3 号(平成 20 年 1 月 10 日発行)平成 18 年度の事業報告 など

成果：情報としては限られてはいるが会員への情報発信ができた。

まちわくに興味がある人に対して、現在進行している事業についてまとめて説明できる媒体ができた。

課題：まちわくとして印刷媒体が増えており、他の印刷物との調整が必要
情報発信する内容について精査する必要がある

7. 運営事務

担当スタッフ：佐々倉玲於・宮道喜一

概要：特定非営利活動法人として活動していく上で、以下の事務を行った。

・登記(法務局)関連事務 ・所轄庁(沖縄県)関連事務
・税務(税務署・県・市) ・会計 ・会員 ・総会・理事会運営

課題：昨年度担当した宮道から佐々倉へ引き継がれ、二人体制で事務を担ったが、作業分担や作業内容について、後手を踏むことが度々あった。特に会計事務については、日々の事務作業のルールづくりが必要である。

8. その他事務所のシェア団体の募集

担当スタッフ：佐々倉玲於

概要：事務所維持のための地代家賃が管理費の多くを占めていることから、この負担を軽減するために、これまで事務所をシェアしていた地域活性化協力隊以外の事務所を共有する団体を募集した。数件の問い合わせがあったが、シェアは見送られた。現在も募集中。

．事業に関する事項

9. マチグワー支援 事業部

【趣旨・目標】

まちに暮らす人々が抱えたまちづくりに関する問題を、まちに暮らす人々自身が力を合わせみんなで解決していくために、人々に寄り添い、利害関係から中立の立場に立ち支援(ファシリテート)する存在があることで問題解決が進みます。本事業は、まちわくがその役割・機能を担い、ニーズを持ったまちに暮らす人々を支援していくために行っています。

【今年度実施した取り組み】

にぎわい広場関連事業

(PMJ 助成事業)「孫の代まで 100 年計画なはまち残しプロジェクト」

まちなか事務局事業

- 1) 「ウキウキ! うきしま大作戦」事務局サポート(依頼: 浮島通り商店街)
- 2) 「壺屋やちむん通り祭り 2007」事務局サポート(依頼: 壺屋やちむん通り会)
- 3) 「市場の日」事務局サポート(依頼: 第一牧志公設市場組合)
- 4) 「We Love よりみや地域写真コンテスト」事務局サポート(依頼: 寄の会)

中心商店街活性化基本計画関連事業

(那覇市委託事業) 那覇市中心市街地活性化基本計画策定に向けた市民ヒアリング

【今年度の事業部総括】

「にぎわい広場関連事業」では、本会が捉えた地域の課題に対して、それを解決するための手段を考え、実際にやって見せながら、その手段の価値を地域の人々に認めてもらい、持続可能な形でまわる仕組みとして残していこうと取り組んでいる。現時

点では、手段が見え、その価値も認められ始めている段階まで持ってくる事ができた。次はそれをさらに広げ、仕組みにしていく働きかけを行っていく必要が見えている。

「まちなか事務局事業」では、「来て」と呼ばれた会議に参加し、地域組織から求められたことを行った。その取組みの中から、地域組織に足りない部分や、苦手とする部分が見え、こちらがどのようなサービスを提供すべきかが見えてきた。また、その提供するサービスをありがたく感じ、金銭的対価を支払う価値があると感じてもらえることもわかった。

「中心商店街活性化基本計画関連事業」では、行政と市民の間をつなぎ、要望だけではない市民の声を、行政に届けることができ、行政にはできない役割を NPO として担えたと考えられる。このような行政からのニーズに対しても、応えることができるということが理解できた。

本事業部の地域への支援として、対象としては市民組織に対してと行政組織に対して支援実績ができた。また、支援の仕方として、本会から仕掛けていく方法と、依頼を受けて対応する方法が見えてきている。今後も経験を積みながら、当会なりの支援のスタイルを確立していきたい。

また、今年度は那覇の中心市街地だけに留まらず、他地域の地域組織のサポートができたことは、サポートの幅が広がり、これまでの取組みが他地域にも応用できることを示す第一歩となったと言える。次年度以降は、本事業部の名称も「マチグワー」から「コミュニティ」と改め、地域コミュニティや NPO などテーマコミュニティに対してもサポートを展開していけるように取り組んでいきたい。

事業区分	マチグワー支援 事業部	
事業名	にぎわい広場関連事業 (PMJ 助成事業)「孫の代まで 100 年計画なはまち残しプロジェクト」	
担 当	佐々倉 玲於	
目 的	<p>にぎわい広場(以下、広場と略す)は、イベント広場、コミュニティールーム、チャレンジショップ、エコアンテナショップという機能を持つ那覇市が運営する複合施設です。この広場は、那覇市中心市街地の中心に位置しながら、どの商店街組合・通り会にも属していません。また、周辺 5 つの小学校から対角線を引いた中心に位置し、周囲は、高層マンション・住宅に囲まれています。</p> <p>この広場を地域資源と捉え、バラバラになってしまった、人とまち、人と人、組織と組織を、唯一つなげることができる可能性を持った場所だと捉えている。</p> <p>本事業は、那覇市中心市街地の中心に位置する広場を中心とした周辺地域(以下、なはまちと略す)に暮らす(住む、働く、学ぶ)人とまち、人と人、地域に存在する組織と組織の“つながり”を深め、活かし、広め、孫の代までこのまちを残していけるようにネットワークと仕組みをつくることを目的としています。</p> <p>本年度は、昨年度の取り組みによって生まれたネットワーク組織「なはまち連絡会」が持続可能な仕組みとなるように、事業開発を行い、その事業が事業化できるよう方針を確立することを目指しました。</p>	
事業計画 策定時点	現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・地域でのつながりとして「なはまち連絡会」というネットワーク組織ができています。 ・「子ども」「にぎわい広場の運営」「つながり」「コーディネーター」という 4 つのキーワードが見えてきており、取り組むべき事業が絞り込めてきている ・資金的な面で持続可能な収益構造はできていない。
	計 画	<ul style="list-style-type: none"> ・現在取り組んでいる職場体験受入事業を収益構造が生まれるように事業開発を行います。 ・現在発行している地域情報誌「まちなか現在」のリニューアルや Web の活用によって収益構造が生まれるように事業開発を行います。
実施取組み	<p>【子ども】マチグワー職場体験受け入れコーディネート事務局 6月～2月 那覇市内中学校 11 校・197 人の受け入れとプログラム開発</p> <p>【子ども】那覇市立寄宮中学校 1 年生 総合的な学習の時間授業 企画・実施 5月～10月 16 回の授業企画・実施(のべ約 222 時間投資)</p> <p>【つながり】まちなか現在編集事務局 4月～3月 まちなか現在 18 号～26 号まで全 9 号発行 (月 5000 部からスタート、23 号より 7000 部発行)</p> <p>【にぎわい広場】2 周年記念イベント・行政担当者との話し合い イベント：5 月 13 日(日)開催、話し合い：9 月 10 日(月)</p> <p>【コーディネーター】勉強会の開催、助成事業報告会へ出席、団体視察 勉強会：9 月 16 日(日) 13 時～18 時 講師：櫻井常矢 氏(高崎経済大学) 報告会：12 月 12 日(水) 東京にて</p>	

	視 察：12 月 13 日(木) NPO フュージョン長池へ
成 果	<p>昨年度 2 校から 5 倍以上に依頼数が増え、プログラムとしての流れができた。子ども、学校、商店街、役所からは高い評価を得ている。</p> <p>学校教育の現状、学校の体制、中学生の発達状況などを学ぶことができた 1 年間継続して取り組むことができ、配布先の反応から新しい価値を創造し始めている感覚を持っている。また、かかる時間と労力とコストが見え、次年度やるべきことも見えている</p> <p>公共施設に人々が関心を寄せなくなっていくプロセスを学ぶことができた。 外部からのアイデアをヒントに、自分たちの取組みを見直したり、新しい方法を思いつくことができた</p>
課 題	<p>プログラムとしてお金を取る方法を考え切れていない。担当者の想いが切れたときに破綻する仕組みになっている。</p> <p>多くの時間と労力と神経を使うが、それだけの金銭的対価は見込めないため、強い意志を持って本気で関わる気がなければ継続できないし、学校教育を変えていくという成果は得られない。</p> <p>当会や広告を出す店舗など、想いがある人だけが労力やお金を負担する仕組みから地域に働きかけ、価値を認めてもらい、みんなでお金も出し合いながらつくっていく体制をつくっていく必要がある</p> <p>担当部署が動き出すのを待つばかりで、どう動くべきか考えることができなかった。今後、当会がどう関わっていくべきなのか見極める必要がある。</p> <p>助成先からの期待も高まっているものの、2008 年 9 月の時点でどれだけの成果が出せているか不安。</p>

事業区分	マチグワー支援 事業部	
事業名	子どもの遊び場づくり事業	
担 当	佐々倉 玲於	
目 的	<p>国際通りのトランジットモールが始まり、那覇の中心商店街には、地元客特に、近隣市町村に住む方々が親子・家族で商店街を訪れる人が増えています。</p> <p>その中で、子ども達は、自分達が主体となって参加し、楽しめる機会(遊び)を求めていること。その親は、子どもといっしょに親子で楽しめる場所を求めていること、が見えてきました。</p> <p>一方で、現在のまちには「買う」という場はあっても「楽しめる場」が少なく、トランジットモールによってせっかく来た人が「また来たい」と思う仕組みができていません。</p> <p>本プロジェクトは、トランジットモール時(毎週日曜日)の国際通りを中心とした那覇のまちに、子どもを対象とした遊びのプログラムを提供できる NPO や周辺地域の人々と連携し「楽しめる場」「遊びの場・機会」をつくります。そして子ども達が「那覇のまちで遊んだ」という思い出をつくり、将来那覇の街に愛着を持つきっかけをつくります。また、この取り組みが、地元で暮らす人々と那覇の商店街をつなぐきっかけとなることを期待し実施します。</p>	
事業計画 策定時点	現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・国際通り沿いにビルを持つ方からの相談があった ・当会がコーディネーター役となり、子ども向けのプログラムを持つ NPO とつなぐことを行う ・NPO へのヒアリングを行い、興味を示してもらえた ・全労済の助成金の申請を行った(7月結果発表)
	計 画	<ul style="list-style-type: none"> ・試行期間：5月20日(日)～6月24日(日)(全6回) ・準備期間：7月～9月 ・本格実施：10月7日(日)～翌年年6月29日(日)(全39回)
実施取り組み	助成金を獲得することができず、他業務との兼ね合いで優先順位が下がり、取り組むことができなかった	

事業区分	マチグワー支援 事業部	
事業名	まちなか事務局事業	
担 当	佐々倉 玲於	
目 的	<p>地域団体・NPO や商店街の、会議の進行、記録・広報の支援・書類作成の補助など事務局サポートを行う。</p> <p>今年度は、地域団体・NPO からの依頼を受けやすくするため、広報ツールを作成する等の環境整備を行います。</p>	
事業計画 策定時点	現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度から商店街組織からイベントの事務局的役割（書類作成等）の依頼が来始めている。 ・商店街組織だけでなく、地域団体・NPO など書類作成など苦手とする組織からの潜在的ニーズがあると捉えている。 ・しかし、それを積極的に受け入れる環境整備ができていない。
	計 画	<ul style="list-style-type: none"> ・壺屋やちむん通り会祭り(11月上旬)
実施取組み	<p>「ウキウキ！うきしま大作戦」事務局サポート（依頼：浮島通り商店街） 5～6月、10～12月（のべ約 44 時間）会議記録作成、企画書、報告書作成</p> <p>「壺屋やちむん通り祭り 2007」事務局サポート（依頼：壺屋やちむん通り会） 8～11月 会議へ出席しアドバイス、文書・チラシ等の作成</p> <p>「市場の日」事務局サポート（依頼：第一牧志公設市場組合） 文書・チラシ等の作成</p> <p>「We Love よりみや地域写真コンテスト」事務局サポート（依頼：寄の会） 6月～11月 プロセス企画、会議記録作成、広報物作成、イベント補助</p>	
成 果	<p>ボランティア的に始まった取組みではあるが、新規の依頼もあり、金銭的対価の支払いも得られるようになった</p> <p>取り組んで行く中で、地域組織が求めているサポートは、会議の進行ではなく、発言の記録やまとめなど、話し合った結果が次の行動に結びつくようなサポートが必要であるということがわかった。</p> <p>サポートするためにどれくらいの時間と労力が必要なのかもわかった</p>	
課 題	<p>何をどれだけやるのかがサービス内容が分かり、それに対していくらかかるのか、わかりやすく、依頼しやすいメニュー化が必要。 2008 年度対応 つつい無償で働いてしまう傾向にあるため、料金を取るべきか取るべきではないを見極めて行動していく必要がある。</p>	

事業区分	マチグッー支援 事業部	
事業名	中心商店街活性化基本計画関連事業 (那覇市委託事業) 那覇市中心市街地活性化基本計画策定に向けた市民ヒアリング	
担 当	佐々倉 玲於	
目 的	今年度那覇市が実施する事業に NPO として積極的に関わりながら、計画に地域住民の声が反映され、実質的な計画が作られるように働きかけを行います。	
事業計画 策定時点	現 状	・地域のニーズを引き出す場をつくり、そのニーズを行政へ提案する働きかけを行う
	計 画	・中心商店街周辺の地域関係組織を対象に、地域を変えて約 25 地域での小グループでの集まりを持ちながら、ニーズ調査を行い、市民ニーズとして提案します。 ・約 3 ヶ月間をかけて行う
実施取組み	ニーズ調査の事業提案・事業受託 地域組織 14 グループに対して、グループヒアリングを実施(7月~9月) 報告会の実施・報告書作成	
成 果	商店街のみならず、小学校の保護者など地域に住んでいる方々がどのような考えや問題意識を持っているか把握することができた ヒアリングで出た発言をそのまま使って分類し、報告書にまとめたため、地域的心声をリアルに伝えることができた 行政担当者もグループヒアリングに参加し、生の声を聞いた(地域課題に触れた)ことで、考え方や取組み姿勢に変化が起こったと思われる	
課 題	この調査が、中心市街地活性化基本計画策定にどれだけ反映されたのか、役に立ったのかが疑問である。計画策定プロセスにもう少し積極的に働きかけを行っていく必要があったかもしれない。 地域の課題が多く把握できたが、この課題に対して、誰がどのように動くのか、本当に解決する必要がある課題なのか、など深く考えるプロセスを持たなかったため、地域課題解決に向けたアクションまでには至っていない。 また、こういった場合、当会として地域や行政が動くまで待っているだけでよいのか、放置していいのか、という葛藤が生まれる。 本事業は、当会から提案しながら、担当部署と調整して実施した協働事業と言えると思うが、随意契約できないというところから、一般事業者(コンサルタント)のような委託契約のスタイルとなった。この点についても、今後 NPO として取り組んでいく必要があると思われる。	

10. ファシリテーション 事業部

【趣旨・目標】

すべての人々が自ら暮らすまちを想い、考え、納得してつくっていきけるような市民社会を実現するためには、市民一人ひとりが地域・社会に関わり(参画)、民主的な意思決定のプロセスの中でまちづくりが行われる状態をつくっていく必要があります。そのためには、そのような民主的な意思決定のプロセスや参加の場をつくっていく能力を持った人が増える必要があり、民主的で多様な市民参加の機会を望む市民の存在が必要です。

このような視点や参加の機会をつくっていくスキル(ファシリテーション技術)に出会い、学ぶ機会を多くつくっていくために本事業を行います。具体的な事業として、研修・講座事業、ファシリテーター派遣事業を行っています。

【今年度実施した取り組み】

研修・講座事業

- 1) ヘルスケア関連団体ネットワークの会 沖縄地区学習会「広報ツールの見直し」(依頼: NPO 法人アンビシャス)
- 2) 平成 19 年度里親・里子交流集会 子ども・高学年ワークショップ ファシリテーター(依頼: (社団)沖縄県里親会)
- 3) 平成 19 年度ボランティア団体研修会「誘いたい」「続けたい」と感じる活動づくり」(依頼: 南風原町社会福祉協議会)
- 4) 琉球大学農学部農村整備学講義「ワークショップ体験」(依頼: 琉球大学農学部農地防災研究室)
- 5) おおたけ保育園・まつやま保育園職員研修「決めて」「動ける」会議をつくろう」(依頼: おおたけ保育園)

ファシリテーター派遣事業

- 1) 共同購入事業本部会議改革プロジェクト(依頼: 生活共同組合コープおきなわ)
- 2) 平成 19 年度漫湖鳥獣保護区保全事業検討調査業務 地域ワークショップ支援

(依頼: (株)プレック研究所)

- 3) 沖縄市中心市街地活性化支援事業情報交換会の運営 (依頼: (株)インタープラン 沖縄)

【今年度の事業部総括】

これまでの取り組みも含めて、ある程度経験を積むことができたこともあり、研修・講座やワークショップのプログラム検討から実施までの時間や労力が最低どれくらいかかるのかが見えてきた。それによって、金銭的対価として、どれくらいを支払ってもらうべきなのかも見えてきている。そして、ファシリテーターとして、現時点で持っている能力レベルも把握でき、得意分野・不得意分野も認識できるようになってきている。

これらのことによって、ファシリテーター派遣サービスをしっかりメニュー化し、対応できる自信が持てるようになった。今後は、依頼しやすいような体制を整えるとともに、積極的に広報していく必要がある。また、ファシリテーション能力としても、レベルアップしていく必要がある。

さらに、依頼が増えてくることを想定して、当会が納得いく能力をもったファシリテーターとつながったり、育成していくことが求められる。今後は、徐々にそこにも力を割いていくようにする必要がある。

また、今は依頼を受けて行動するということがしか行うことができていないが、「ファシリテーター」という存在や価値を伝え、認めもらうための地域・社会に対する積極的な働きかけが必要ではないかと思われる。

事業区分	ファシリテーション 事業部
事業名	研修・講座事業
担 当	佐々倉 玲於
実施取組み	<p>平成 19 年度里親・里子交流集会 子ども・高学年ワークショップ (依頼：(社団)沖縄県里親会) 【講師】佐々倉 玲於 【講師料】9,800 円 【日時】2007 年 11 月 23 日(金)14 時～17 時 【場所】かんぼレクセンター 【参加人数】10 人</p> <p>ヘルスケア関連団体ネットワークの会 沖縄地区学習会「広報ツールの見直し」(依頼：NPO 法人アンビシャス) 【講師】佐々倉 玲於 【講師料】10,000 円 【日時】2008 年 2 月 4 日(月)13 時～15 時 30 分 【場所】那覇市 NPO 活動支援センター【参加人数】18 人</p> <p>琉球大学農学部農村整備学講義「ワークショップ体験」(依頼：琉球大学農学部農地防災研究室) 【講師】佐々倉 玲於 【講師料】0 円【日時】2008 年 2 月 5 日(火)8 時 30 分～10 時 【場所】琉球大学農学部 【参加人数】20 人</p> <p>平成 19 年度ボランティア団体研修会「誘いたい」「続けたい」と感じる活動づくり」(依頼：南風原町社会福祉協議会) 【講師】佐々倉 玲於 【講師料】9,000 円【日時】2008 年 2 月 23 日(土)14 時～17 時 【場所】南風原町社会福祉センター 【参加人数】20 人</p> <p>おおたけ保育園・まつやま保育園職員研修「“決めて”“動ける”会議をつくらう」(依頼：おおたけ保育園) 【講師】宮道喜一 【講師料】20,000 円【日時】2008 年 5 月 19 日(土)17 時～19 時 【場所】まつやま保育園 【参加人数】18 人</p>
成 果	<p>子ども、学生(若者)、30代～50代層、60代～80代層と、各世代に対して取り組むことができ、各世代の特性を学ぶことができた。</p> <p>「広報」というテーマを学ぶ単発の研修プログラムを開発することができた。</p> <p>「ワークショップ」については、単発研修プログラムとして安定してきている。</p> <p>研修プログラムをつくり、提供するまでの時間と労力がどれくらいかかるかが見通すことができるようになった</p>
課 題	<p>佐々倉は、子ども、60代～80代層に対する研修において、手法のバリエーションが少ないため、ついていけない参加者もいる。それぞれの世代特性に応じた手法を学んでいく必要がある。</p> <p>「講師料」において、相手の規定に沿った料金で、しかもプログラムを提供している時間分しかもらうことができていない。研修の質や費やしている時間と労力に合った料金を提示できるようにしていく必要がある。</p>

事業区分	ファシリテーション 事業部
事業名	ファシリテーター派遣事業
担 当	佐々倉 玲於
実施取組み	<p>共同購入事業本部会議改革プロジェクト (依頼：生活共同組合コープおきなわ) 4月～11月 職員研修・コンサルティング・会議ファシリテート 【委託料】30万円</p> <p>平成 19 年度漫湖鳥獣保護区保全事業検討調査業務 地域ワークショップ支援 (依頼：(株)プレック研究所) ワークショップファシリテート、記録取りまとめ 【委託料】23万円 1回目：【日時】12月23日(日)14時～16時【場所】水鳥湿地センター【参加者】10名【スタッフ】佐々倉・小阪・佐久間 2回目：【日時】3月1日(土)14時～17時【場所】真玉橋公民館【参加者】30名【スタッフ】佐々倉・宮道・佐久間</p> <p>沖縄市中心市街地活性化支援事業情報交換会の運営(依頼：(株)インタープラン沖縄) 情報交換会のファシリテート 【委託料】3万円 【日時】2008年1月11日(金)18時30分～20時30分【場所】沖縄市市役所【参加者】20名</p>
成 果	<p>納得できる金銭的対価をもらいながら委託を受けられるようになった依頼の形態として、1)コンサルティングを中心にしながら研修・ファシリテーションを組み合わせた長期的に関わるタイプ 2)単発のファシリテーター派遣タイプ 3)連続ワークショップのファシリテーションと記録の取りまとめを含めたタイプ のパターンが見えてきた</p> <p>外部ファシリテーターをおくメリットとして、主催者側は、1)会全体の運営に集中でき、場を客観的に見ることができる 2)参加者からの発言を直で受けることなく、参加者と意見交換できる ということを改めて捉えることができた。</p>
課 題	<p>会議運営のコンサルティングを行っている、組織内の運営・マネジメントの課題にぶつかる。その課題解決を行わないことには、会議運営について根本的な解決ができないことに気づく。しかし、その領域まで踏み込んでいくと時間と労力を費やす必要があるが、そこまでの契約内容になっていない場合、プロジェクト成果との兼ね合いで何をどこまでやるべきか迷う。今後は、このようなことも見越して、契約前に事前にこのような状況を想定した取り決めを行っておく必要がある</p>

11. デザインレイアウト支援 事業部

【趣旨・目標】

チラシや団体ホームページ、パンフレット等の作成を通して、まちづくりや市民活動を行う団体の情報発信支援を行う。

【今年度実施した取り組み】

広報物作成支援

- 1) なはの日広報ポスター制作
(依頼: なはの日実行委員会)
- 2) 七五三イベントポスター制作
(依頼: 新栄通り商店街振興組合)

イベント実施支援

- 1) マチグラー劇場づくり支援
(依頼: 桜坂劇場)
- 2) 小松かおり著『沖縄の市場 マチグラー文化誌』出版記念講演会
(共催: ボーダーインク)

Web サイト更新支援

- 1) 沖縄 NGO 活動推進協議会

【今年度の事業部総括】

今年度は、本事業部を専属的に行うスタッフがいないため、依頼を受けたものについて、対応していく予定で取り組んだ。

現在のスタッフ能力と体制で、対応できる範囲がどのレベルなのかということが把握でき、レベルを超えるものについては、他と協働して実施できるということも認識できた。

また、当会が持っている能力として、「まちの人たちとのつながり」という目に見えないものもあり、イベント実施支援に対して、その能力を期待しての依頼が起こったことも注目したいところである。

地域・社会からのニーズとしては、ありそうであるが、本事業部の業務を専属的に行っていきたいというスタッフがいない中、どうしていくべきかを今後検討する必要がある。

事業区分	デザインレイアウト支援 事業部
事業名	広報物作成支援
担 当	佐々倉 玲於
実施取組み	なはの日広報ポスター制作（委託：なはの日実行委員会） A2・2色ポスター・300部（協働：ecco）【管理費】7000円 七五三イベントポスター制作（依頼：新栄通り商店街振興組合） B4・2色ポスター・100部、A4・1色チラシ・1000部【制作費】12400円
成 果	まちなか現在をつくっているというつながりからの依頼であり、営業部分を 当会が担い、制作についてはまちなか現在の制作をいっしょに行っている eccoさんと協働で行った。このような形で、役割分担を行い、技術を持った 相手と協働して業務ができることがわかった 高度な技術を求めている場合は、ある程度であれば対応可能であることも わかった
課 題	デザイン能力を持った専門スタッフがない現在、最低限のサポートしかで きない状況であることを理解し、今後どうしていくべきかを検討する必要が ある。

事業区分	デザインレイアウト支援 事業部
事業名	イベント実施支援
担 当	佐々倉 玲於
実施取組み	マチグラー劇場づくり支援（依頼：桜坂劇場） 7月～8月 屋台プロジェクトのノウハウを提供 小松かおり著『沖縄の市場 マチグラー 文化誌』出版記念講演会（共催： ボーダーインク） 共同企画として実施。公設市場とのコーディネート 【企画支援料】3万円 【日時】9月7日(金)13時～17時 【場所】第一牧 志公設市場
成 果	まちの人とのつながりがあまりないが、「まちでイベントをやりたい」と思っ た主体に対して、当会がサポートできることがあるということに気づくこと ができた イベントに協力することによって、新しい人との出会いがあったり、別の機 会に当会が協力を依頼しやすくなったりするメリットがあることがわかった
課 題	無償で協力する場合、当会がなぜ協力するのかを明確にしておく必要がある。 特に、営利企業と協働を行う場合は、スタッフのモチベーション維持の為 にも必要である。

事業区分	デザインレイアウト支援 事業部
事業名	Web サイト更新支援
担 当	佐々倉 玲於
実施取組み	沖縄 NGO 活動推進協議会 【委託料】5 万円 【期間】1 年間 【更新回数】約 20 回
成 果	これまで担当が5年間程度ボランティア的に行っていた Web 更新支援を今年度から組織で受けて取り組んだ。このことによって、NGO からの情報が入ってきたり、NGO とのつながりができた
課 題	IT 関連の技術は日々進歩するが、当会の IT 技術はそこに専念しているスタッフがいないため進歩していない。そのため、最低限のサポートしかできない状況であることを理解し、今後どうしていきべきかを検討する必要がある。

12. 地域情報収集発信 事業部

【趣旨・目標】

まちに暮らす人々がそのまちの成り立ちや「今」について知り、関心を持ち、愛着を持つことが“自らのまちを想い、考え、納得してつくっていきける”ような社会・まちを目指す上での第一歩となる。また、そのまちの「未来」は「過去」そして「今」の延長線上にあることから、これからのまちづくりのあり方を考えていくために、今のまちを作ってきた先人の想いや経緯を知ることが重要である。

自分達の暮らすまちのことは自分達で決め、実践していくという住民自治の土壌づくりを目的とした地域情報の収集と発信を行う。

【今年度実施した取り組み】

地域情報誌「み～きゆるきゆる」の制作・発行

- 1)「開南」を特集エリアとした第 5 号の制作
平成 19 年 10 月の発行を目指したが、平成 20 年 3 月 31 日現在での発行ができず、平成 20 年 5 月発行の見込みである。

【今年度の事業部総括】

現在、まちわくでは、「み～きゆるきゆる」以外にも、月刊の地域情報フリーペーパー「まちなか現在」の発行やマチグラー職場体験受け入れのための地域情報収集などにおいて、地域情報の収集発信を行っている。これまでの活動の中で地域情報を集めるツールや機会をつくることができてきている。さらに、マチグラー情報の蓄積と活用を目指した「マチグラー楽会」も準備会が発足した。

しかし、日々の活動の中で得られる地域情報が担当者レベルで散在し、共有されていない状態である。得られた地域情報の活用イメージの確立とその活用に向けた情報蓄積のルールや仕組みづくり、求める情報をこちらから得に行く戦略が求められている。

事業区分	地域情報収集発信 事業部	
事業名	地域情報誌「み～きゆるきゆる」発行事業	
担 当	宮道 喜一	
目 的	<p>那覇の中心部における地域情報をエリアを限定して深く掘り下げ、誰にでもわかりやすく発信することを目的として地域情報誌「み～きゆるきゆる」を発行する。</p> <p>また、毎号制作ボランティアを募集し、市民参加型による情報誌作りを行うことで、多様な目線で市民にわかりやすい情報誌づくりを行う。</p>	
事業計画 策定時点	現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・平成 16 年度に地域情報誌「み～きゆるきゆる」第 1 号を創刊し、平成 18 年度までに第 4 号まで発行した。 ・情報誌の制作については、ある程度ノウハウが蓄積されてきたが、現在 9 ヶ月かかっている作成期間を短縮することと、発行された「み～きゆるきゆる」の販路拡大について改善の余地を残している。 ・また、作成した情報誌をツールとした当団体事業につなげ、委託ではない直接販売の販路の開拓が課題である。
	計 画	<p>「み～きゆるきゆる」第 5 号発行 / 対象エリア：開南</p> <ul style="list-style-type: none"> ・制作期間 6 ヶ月（平成 19 年 10 月発行予定） ・参加学生の成長プロセスの記録（若い人がどう地域に愛着を持っていくのか） ・制作に携わっているメンバーの変化の記録 「み～きゆるきゆる」活用自主講座 ・第 1 号から第 4 号までの対象エリアでのまちあるき講座の実施。 ・平成 20 年 1 月～2 月にかけて各号エリア 1 回（計 4 回）実施。 ・参加者 1 回 10 名目標。 「み～きゆるきゆる」販売 ・昨年通り、直売・通販・委託販売を中心に展開。新規開拓として、県外の沖縄県人会など一定量買取の期待できるところへの営業を行う。 ・売れている号・売れていない号の検証を行う。 ・地域組織にどう売れるか検討する。 <p>運営</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事務局：宮道、他 1 名の 2 名 ・Vol.5 作成にあたり、作成メンバーを新規募集。新規メンバー（学生層・関心を持つ社会人層・対象エリアに暮らす人層）募集目標 5 名。
実施取組み	<p>「み～きゆるきゆる」第 5 号発行 / 対象エリア：開南</p> <p>5 月より制作を開始し、平成 19 年 10 月の発行を目指したが、平成 20 年 3 月 31 日現在での発行ができず、平成 20 年 5 月発行の見込みである。</p> <p>講座の実施はできなかった。また、販売についても昨年度の現状維持で年度を終えた。</p> <p>『神戸の文脈 都市の文脈』スライド&トークショー」パネリスト参加</p>	

	<p>み～きゆるきゆるを通じてつながった神戸のまちづくりネットワークである「プランナーズ・ネットワーク神戸」有志主催のスライド&トークショーへゲスト参加した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 日 時：平成 19 年 9 月 9 日（日）13:30（13:00 開場）より 16:00 まで ・ 場 所：こうべまちづくり会館 2 階（神戸元町商店街中） ・ 参加費：無料 ・ 主催:プランナーズ・ネットワーク神戸 有志 「震災 10 年後、灘・東灘の景」討論会実行委員会 ・ 協力:こうべまちづくりセンター ・ ゲスト <ul style="list-style-type: none"> ➢ 山田章博（有）市民空間きょうと代表 ➢ 浅見雅之（株）いるか設計集団取締役 ➢ 宮道喜一 NPO 法人まちなか研究所わくわく事務局長
<p>成 果</p>	<p>制作メンバー募集からオリエンテーション、まちあるき、文章&取材講座、目次構成までは予定通りのプログラム進行が可能となった。 レイアウトデザインに関しては印刷業者へ外部発注することで、これまで最も時間がかかり作業負担の大きかった部分の負担軽減を行えた。 神戸とのネットワークが広がった。</p>
<p>課 題</p>	<p>毎号の課題であるが、取材を進め、原稿を精査し入稿するという部分がスムーズに進まない。今回はレイアウトデザインの部分を外部発注することで負担軽減を行ったが、担当者（宮道）が動けなくなったときに、すべてがストップしてしまうという状態にあり、原稿が集まってきても原稿を精査し、印刷業者へ入稿するという作業が完全にストップしてしまった。 今年度は、宮道が月曜日から金曜日までまちわく外部で働くことになったことや生活環境の大きな変化がある中で、宮道以外の中心的に動ける人材配置もしくは育成を行うべきであった。 いつ完成するかわかならない状態は、制作メンバーのモチベーションも当然ながら落ちていき、まちわくへの信頼を欠くことにつながりかねない。また、「み～きゆるきゆる」読者からの問い合わせもある中、読者の信頼も裏切っている形になり、大きな反省を残している。 完成後に開南エリアのまちあるき講座をしたいという制作メンバーの声がある。完成後のまちあるき講座を平成 20 年度事業計画へ入れることを検討する必要がある。 まちわくとして、今、どのエリアの情報を得ておきたいのか、その情報をどのように活用したいのか、どのように蓄積していくのかを明確にしたうえで、制作活動を展開していく時期に来ている。</p>

13. 調査研究 事業部

【趣旨・目標】

当団体は、「見えないまちの問題」や「一部の人の目にしか映っていないまちの問題」をみんなにわかるようにし、まちを取り巻く現状についてみんなで考え、解決に導いていくことを目的としている。現在まちが抱えている課題を解決するためには、課題を認識することが重要であり、調査研究を行うことによって問題解決のプロセスへ導くことが求められる。

【今年度実施した取り組み】

まちなかデータ収集発信事業

なはまち連絡会が発行している「まちなか現在」において、コラム「まちダス」の連載を行った。事務局と連携し統計データを収集、分析し定期的に調査内容を発信し、問題提起を行った。

【今年度の事業部総括】

調査研究事業は、既存にある調査資料や統計資料をもとに、まちの現状について数値であらわし、課題を認識することを目的に今年から始まった事業である。

この地域は、他の地域に比べ那覇市や商工会議所を中心に調査研究が既に行われており多くの統計資料が現存していることが分かった。しかし、それらの調査・統計資料は散逸し、互いに連携しての分析や経年調査されていないことがわかった。

今回これらの調査・統計資料を「まちなか」という地域に絞って整理・分析することによりまちの姿が数字で現わすことができた。今まで「まちぐわーの人が減ったよね」と抽象的に語れていたことが具体的に数値で表すことができたのは大きな成果だと考える。また、まちに存在する組織や土地の状況もつかむことができた。

今後の展開として、引き続き資料収集を進めるとともに、これらの資料が活用しやすい環境を作っていくことが必要である。また、既存の調査研究では、抜け落ちている視点や数値を拾い上げ当団体が独自の調査研究を行っていく必要がある。

事業区分	調査研究 事業部
事業名	まちなかデータ収集発信事業
担 当	小阪 亘
目 的	当団体は、「見えないまちの問題」や「一部の人の目にしか映っていないまちの問題」をみんなにわかるようにし、まちを取り巻く現状についてみんなで考え、解決に導いていくことを目的としている。現在まちが抱えている課題を解決するためには、課題を認識することが重要であり、調査研究を行うことによって問題解決のプロセスへ導くことが求められる。
調査結果	<p>「まちなか現在」20号～25号において連載</p> <p>中心市街地で暮らす人口 「25年で3分の2の人口に」 【掲 載】まちなか現在 20号（2007.7） 【出 典】那覇市住民票台帳人口 【調査結果】 中心市街地で暮らす人口変化 那覇市の人口は25年前より5%増えている（2007年5月末316,276人）。しかし、中心市街地（牧志1～3丁目、松尾1、2丁目、壺屋1丁目、久茂地1～3丁目）は、1981年で21292人が2006年で13911人と7381人の人口減少が見られた。</p> <p>まちなかの通行量 「通行量20年間で平日約3万人、休日約9万人減少」 【掲 載】まちなか現在 21号（2007.8） 【出 典】那覇市中心商店街通行量調査報告書 （昭和59年3月～平成16年3月） 【調査結果】 平和通り、水上店舗、新栄通り、沖栄通り、浮島通り、神原通り、国際通りの昭和58年から平成15年での通行量の増減数は、平日においては28,442人の減、休日に至っては87,106人の減少となっている。</p> <p>まちの地価 「沖縄県内最高額は1㎡あたり726,000円也」 【掲 載】まちなか現在 22号（2007.9） 【出 典】地価公示、地価調査 【調査結果】 沖縄県内で地価が高いのは久茂地3丁目1-1の726,000円/㎡や牧志2丁目1-1の559,000円/㎡と中心市街地に集中している。また周辺域の新都心地域の地価は、おもろまち4-16-5の239,000円や天久2-11-16の170,000円と2倍ほどの地価の違いがある。</p>

	<p>共同住宅数 「まちなか共同住宅数」 【掲載】まちなか現在 23 号 (2007.10) 【出典】人口、世帯数：那覇市統計資料 共同住宅数は、2006 年ゼンリン住宅地図を元に編集部調べ 【調査結果】 まちなか地域では 1 棟辺り平均 10 戸の共同住宅が供給されている。世帯の平均人数は 2 名で、単身世帯や子どものない世帯の利用が多いと思われる。</p> <p>自治会加入率 「まちなか自治会加入率」 【掲載】まちなか現在 24 号 (2007.11) 【出典】那覇市ホームページ自治会情報より (平成 17 年現在) 那覇市の自治会加入率は 25.2%だが、まちなかエリアは、自治会未組織地域が多く自治会加入率は 10.4%と低い。他地域とは異なり商店主を中心とした通り会などが組織されているが、商業活動に重点がおかれ地域活動との繋がりが薄い。</p> <p>組合・通り会 「まちなか組合・通り会加入率」 【掲載】まちなか現在 25 号 (2007.12) 【出典】まちなか研究所わくわく電話調査結果より 商店街組合・通り会は、外灯やアーケードのメンテナンス、ゴミの一括収集、イベントの実施など各通りで必要な取り組みを行っています。加入 100%の通りもあれば、加入率が低い通りもあることがわかります。</p>
<p>成 果</p>	<p>既存調査統計資料をもとに数値を取りまとめることにより、中心市街地の変遷が数値からも読み取ることができた。 まちなか現在に掲載することにより、自分たちの住んでいる地域の現状について伝えることができた。</p>
<p>課 題</p>	<p>既存調査統計資料を団体内部での共有ができていない。 今回で既存調査統計資料は、ある程度調べたので、今後は当団体が調査研究を行う必要がある。</p>